

平成 30 年 8 月 23 日

「中野区新図書館及び地域開放型学校図書館等運営計画」学識経験者による
検討委員会 第 3 回 議事テープ起こし

○開催概要

日時	平成 30 年 8 月 23 日（金） 15 時 00 分～17 時 00 分	
場所	中野区立中央図書館	
出席者	氏名	所属
	大串 夏身	昭和女子大学名誉教授
	宇陀 則彦	筑波大学 図書館情報メディア系
	平久江 祐司	筑波大学 図書館情報メディア系
	高橋 昭彦	中野区教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当）
	宮崎 宏明	中野区教育委員会事務局学校教育分野 指導室長
	小野 秀晃	中野区教育委員会事務局 子ども教育経営分野 図書館運用支援 担当係長
	加藤 慎一	株式会社ヴィアックス
	永田 治樹	株式会社未来の図書館研究所 株式会社ヴィアックス 顧問
	今泉 裕美子	株式会社ツクリエ
	太田 尚緒美	株式会社ツクリエ
	梶川 悦子	株式会社ヴィアックス
	牧野 雄二	株式会社未来の図書館研究所 株式会社ヴィアックス
	廣瀬 幸子	中野区立中央図書館
	佐伯 充久	株式会社ヴィアックス
笠原 未来	株式会社ヴィアックス	

○議事テープ起こし

発言者	内容
1. はじめに	
(1) 開会	
加藤	学識経験者による第 3 回検討委員会を始めます。 まず、配布資料の確認をさせていただきます。1 点目が「次第」、2 点目が「学 識経験者による検討委員会 第 2 回 議事テープ起こし（案）」、3 点目が「16 歳 以上の区民を対象とする住民意向調査の経過報告」、4 点目が「運営計画案 要

	<p>旨（8/23 時点）」となります。次第には 5 番目の資料の記載がありますが、事情により回収させていただいておりますので、以上 4 点が配布資料となっております。ご確認の程よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からのお知らせとなりますが、河西先生が今回もご事情により欠席という形になっておりますので、学識経験者の皆さま 3 名で開始いたします。それでは、座長の大串先生お願いいたします。</p>
大串	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に従って進めます。最初に、時間配分ですが大体 3 つの項目に分かれますので、報告が 30 分、検討事項の（1）が 30 分、（2）が 30 分で進めます。では、報告事項からお願いいたします。</p>
<p>1.1 報告事項</p> <p>（1）調査の状況報告</p> <p>①住民意向調査の状況報告（郵送での質問紙調査の概要）</p>	
牧野	<p>「16 歳以上の区民を対象とする住民意向調査の経過報告」についてお伝えいたします。18 日を投函期限として行った調査の単純集計をしました。速報的なものになるのですが、ご容赦いただければと思います。資料に基づいてご説明いたします。</p> <p>まず、3,000 人の 16 歳以上の中野区民の方を対象に無作為抽出を行いました。郵送配布、郵送回収を行っています。現在のところでは、回収率は 21%を越えている状況です。</p> <p>問 1 では回答者についての情報を伺いました。問 1-1 では年代を伺い、40 代の回答者が 1 番多く、50 歳台、60 歳台、30 歳台に続いていくような構成でした。今後、中野区の年齢構成と比較しながら確認を出来ればと思っています。</p> <p>問 1-2 では中野坂上付近の「利用」について伺ったのですが、「出かける」、「たまに出かける」を併せると 36%弱の方が利用していることが分かりました。</p> <p>問 1-3 で「出かける」、「たまに出かける」の理由を質問したところ、買い物で来られる方など生活の動線の中で中野坂上を「利用」している方が構成としては大きく占めていました。</p> <p>生活の支援、仕事の支援、子育ての支援に重点を置いた新図書館計画ですので、問 2 では回答者の生活、暮らし・仕事・学業について伺いました。</p> <p>問 2-1 では職業について聞き、会社員・公務員・団体職員の方が多く、その他に関しては、役員・自営・フリーランス・大学教員を兼業されている方など、様々な職業の方が答えてくださいました。</p> <p>問 2-3 では、「仕事に有用な情報はどこで入手されますか。」ということを知りました。インターネットが 1 番多く、図書、雑誌、新聞、テレビが比較的多くの割合を占める手段として回答がありました。さらに、知人・同業者等の会話</p>

も大きな割合を示しており、仕事の課題を解決する時や情報を入手する時に会話が1つの大きな手段であると読み取れました。

次に子育てについて聞きました。問2-4では「現在、子育てをされていますか。」と尋ねたところ、「はい」と答えた方が140人いました。3桁の数字が取れているので、問4では新図書館等についての要望について聞いているのですが、こういった要望があるのか深くみて行くと、データとして運営計画に繋げて行けると思っています。

問2-6では、子育てをしている方の情報収集について聞いているのですが、インターネットが多く、また会話での収集が大きく占めていました。

問3では現在の中野区立図書館利用について伺いました。今回の回答者は「利用する」が303人、「利用しない」が313人でした。利用する頻度としては月1~2回が最も多い結果でした。

問3-3で図書館を利用する目的について聞いたのですが、「図書・新聞・雑誌を読む」が1番多く、「勉強」や「パソコンを使う」に関しては人数が少ない結果でした。「仕事や研究の調べもの」も多くの割合を占めていました。その他をみると、「新しい知識の発見」や「目的を特に定めずに行う情報収集」等の回答がありました。

次に、問3-4で利用しない理由を聞いたところ1番多かったのは「読みたい本は購入する」でした。あとは「行く時間がない」、「遠い」といった利用しづらさのため図書館に来ないという方もいました。その他の理由に関しては、「情報が最新ではないので」といった図書館のイメージを持たれる方もいらっしゃり、「読書できるスペースがない」というイメージで図書館を利用していない方もいらっしゃるようです。あとは、「子どもたちが走り回るから行きにくい」といった意見も複数ありました。他には「活字が読みにくくなった」、「バリアフリーではない」といった課題を抱えている方がいらっしゃいました。こうした図書館に来づらい理由があるため、利用しない方がいます。

問4では、中野坂上の新図書館及び地域開放型学校図書館に望むことを聞きました。

問4-1「蔵書について」では、子育て支援とビジネス支援に項目を分け、5段階で必要度合いを聞いています。全体的に3段階を越えており、ポジティブな回答になっています。特に、子育て支援もビジネス支援も「最新情報を得たい」という点が高い度合いになっていることが特徴であると思えます。

他の要望に関しても沢山記載があり、「電子図書館や宅配サービスを充実させてはどうか。」といった意見もありました。図書館を利用しない理由で挙げられていた「情報が最新ではないので」といった意見とは違った、「ビジネス雑誌や本などの中には情報がすぐに古くなってしまいうようなものや、内容の薄い本も多

	<p>いいイメージがあります。区の財産になるような、息の長い本や統計書など、調査に役立つ本などがあると良いのではないかと思います。」といった意見もあり、図書館として資料を保存していくことなど考えながらバランスをみて検討していきたいと思います。</p> <p>「読みたい本は購入するから図書館は利用しない」という方もいましたが、「中野区の大学図書館と提携し、区民が大学図書・蔵書を利用できるようにしてほしい」という意見もありました。図書館とは、必要な幅広い資料の提供ができる場なので、そういったサービスも行っていますので、もっと伝えて行く必要性があると思っています。</p> <p>問 4-2 では、「開館時間について」、図書館を利用しやすいと考える時間帯を伺いました。単純集計では 19 時～21 時の夜間が多くなっております。開館時間の参考になるものと思います。例えばクロス集計で子育てをしている方の意見というようにもっと深くみていけるとと思います。</p> <p>最後に、問 4-3「サービスについて」伺いました。レ点が多くついた順でまとめていますが、「職員に気軽に相談できる雰囲気がある」、「自動貸出機などにより自分で資料の貸出・返却ができ、便利である」、「持ち込んだパソコンで作業しやすく、仕事などに役立つ（インターネット接続環境など）」の質問に関しては 50%を越えていました。「3D プリンタが活用できるなど」といった新しい図書館の価値に関しても 30%を越える数字が出ています。比較的低い回答数のものをみると、「読書会・本の交換イベントなどで、読書体験を共有できる」、「情報化社会において安全に情報を活用していくための講座がある」、この辺りは低い数字にはなっており、障害者サービスについて聞いているところ、「大活字本や音訳機」についての回答も 28%を越えている程度です。課題を抱えている人に必要なサービスもあります。課題を抱えている人によっては交流に関しても必要だと思います。クロス集計をしたり、子育て世代の調査と組み合わせたりすることでさらにみえてくるかと思えます。また、図書館の従来のイメージを持ってられる方からすると、新しい図書館のイメージが取りにくいかと思えますが他の調査と組み合わせ確認していきます。</p> <p>問 4-4 では、中野坂上の新図書館または地域開放型学校図書館に関するご要望・ご意見について自由記述で伺いました。「ラウンジ等があったら良い」といった様々な意見がありました。</p> <p>今後、他の調査と組み合わせたりクロス集計をしたりしてみたいこう思うのですが、私たちが検討している計画を実証できるデータは取れたのではないかと考えております。</p>
大串	何か質問はありますか。回収率が低い割には自由記述が沢山あります。関心の高い人に答えていただけたのですね。

	次は運営計画案の進捗状況の要旨について、お願いいたします。
	<p>1.1 報告事項</p> <p>(2) 運営計画案の進捗状況の要旨について</p> <p>1.2 検討事項</p> <p>(1) 新図書館の運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション形成について ・音環境や飲食について ・フロアの利用制限について ・サインについて ・デジタルシティズンシップについて ・目標値のあり方 ・人材について
牧野	<p>資料は、中野区「新図書館及び地域開放型学校図書館等運営計画検討業務」運営計画案 要旨（8/23 時点）となります。</p> <p>これまでの検討委員会で進めさせていただいた内容を参考にし、現在までの運営計画案の要点をまとめた資料となります。</p> <p>次第に箇条書きで挙げた、「1.2 検討事項（1）新図書館の運営計画について」でページ数も添えて記載した課題について、学識経験者の皆さまにご意見を伺い、運営計画案の検討を進めたいと思っております。</p> <p>どのような考えで、この課題を挙げさせていただいたのかを説明いたします。</p> <p>まず、「重点的な収集資料や図書館新設時の資料収集のあり方についてご意見を伺いたい」につきましては、小説等より、ビジネス支援・子育て支援に特色を持った課題解決型図書館として、0・3・5・6・8 類の技術書、育児、教育関連、ビジネス書、語学等の蔵書を重点的に収集します。これらは最新の情報が求められるため、開館時にも既存館からの移管等だけではなく新規に購入したいと考えています。例えば、新規購入資料と既存館から資料を移管して所蔵する望ましい割合について、重点的に挙げた資料収集の考え方について問題はないか、その辺りについてご意見をいただきたく思います。</p> <p>次に、音環境や飲食について課題を挙げています。現在、中野区立図書館のルールでは蓋つきの飲み物であれば持ち込み可能となっており、新図書館でも踏襲するところがあります。新図書館では 9 階のビジネス支援フロアのベンダーコーナーや、子育て支援のフロアのラウンジは飲食可能と計画をしています。例えば、臭いのきついものは注意を促した方が良いか、新図書館のコンセプトとして基本的に自由にして良いか、具体的に決めて行くにあたり、留意点やご意見をいただければと思います。</p> <p>音環境につきましては、基本的に賑やかな図書館というところですが、吹き抜</p>

	<p>け書架といって 3 つのフロアが吹き抜けとなっています。様々な利用者がある中で静かに過ごしたい方もいると思います。その対策としてはマイナスの音を出す案もありますが、先生方のご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>フロアの利用制限について現在考えていることは、ビジネス支援の 9 階フロアにて受付制を取ることを検討しています。主旨としては、データを取ることで運営に活かして行きたい、という考えです。例えば、気軽な入館を阻止してしまうのではないかと、機械式にする際は図書館カードでデータを読み取り、入室する仕組みになりますが、図書館の情報を目的外使用して良いのか、こういった問題が考えられます。そのために、登録の時点でデータの利用目的を確認した方が良いのではないかと考えています、その辺りについてもご意見、留意点等をいただきたいと思っています。</p> <p>次にサインについて、公共図書館ではアナログなサインもありますが、館内や 1 階のエントランスにデジタルサイネージを設置することも現在想定しているところでもあります。公共図書館でのサインのあり方や、デジタルサイネージではイベント情報や資料の情報を流すのが一般的ではあると思いますが、コンテンツ内容や留意点について伺いたく思っております。</p> <p>デジタルシティズンシップについて、前回 SNS リテラシーを議題にする話であったので対応しました。新図書館の特色に関するテーマやターゲットに沿ったイベントを行うことについて盛り込みました。特に SNS リテラシーに関する図書館の取組みに関してどういった留意点があるのか、といった主旨となります。</p> <p>目標値のあり方について、今回ビジネス支援、子育て支援に特色を持った図書館として、それぞれのターゲット層の登録率向上等を目標に考えておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>新図書館の人材について求められる要件を要旨内でまとめました。こちらで問題がないか先生方に確認していただきたく思います。例えば、課題解決支援の専門性を持ったボランティアとしてサブコーディネーターなどを計画しているのですが、考え方に問題はないかも確認していただきたいです。</p> <p>新図書館について課題と考えていることは以上になります。</p>
<p>1.2 検討事項</p> <p>(2) 地域開放型学校図書館及び学校図書館の運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム導入の主眼点 ・人材について ・リポジトリについて 	
<p>牧野</p>	<p>システム導入の主眼点について、学校図書館システムを導入することが、学校図書館の運営充実に向けてのポイントになっております。私たちは学校図書館システムを導入することは、児童・生徒たちのサービス向上となることが主眼</p>

	<p>点として考えています。今回の運営計画にあたって、関わり合いが強いテーマでもあり、基本的なことでも構いませんので、先生方の考え方をご教示していただきたい主旨でございます。</p> <p>人材については、新図書館と同様に求められる要件があります。運営委託の方向性もある中で地域開放型学校図書館には2パターンあります。学校図書館を開放する場合と学校図書館に併設されて区立図書館という位置づけになるタイプです。学校図書館を開放するタイプでは、学校の指示命令系統にある中での職員になると思います。独立したタイプの地域開放型学校図書館の職員は、区立図書館の所属になるであろうと考えております。定まってないところもありますので、ご意見いただきたく思います。</p> <p>要旨では、地域開放型学校図書館も学校図書館も学校図書館指導員ということで「兼務」という書き方になってしまうのですが、必ずしもそうではないので、その辺りの整理が出来ればと思っています。</p> <p>学校図書館コーディネーターは区立図書館から学校支援という形で行くことが自然であると思います。</p> <p>最後に、教育活動の成果を内外で共有できるようにするリポジトリを考えています。その件についても検討していただきたいです。</p> <p>議題には入っていないのですが、地域開放型学校図書館のターゲットに関して子育て支援が考えられ、また区立図書館という位置づけで予約した資料の受取りができるサービスポイントとなることも望ましいと考えられます。小さくスペースも限られていますが、先生のご意見をいただきたく思います。</p>
大串	<p>最初にコレクションの形成について資料の3ページを開いてください。「重点的な収集資料や図書館新設時の資料収集のあり方についてご意見を伺いたい」ということなので、お願いいたします。</p>
宇陀	<p>7階が親子・中高生向け、8階が一般、9階がビジネスなので、それに応じて資料収集の想定をし、ビジネス支援、子育て支援の特色を持たせるのは当然です。その中でさらに詳しく資料の収集のポイントは何かあるか、ということですか。</p>
牧野	<p>新しく図書館を創るタイミングで資料収集の仕方として、既存館から幾らか資料を移管しようということが考えられていますが、新しく資料を購入する必要性やどのくらいが望ましいかなどに関してご意見いただきたいです。</p>
大串	<p>札幌のビジネス街に新しくできるビジネス支援図書館をみに行きました。ビジネスというはとても範囲が広いものです。ビジネスからみると日本の場合は子育て支援もビジネスの1つとなります。子どもの貧困、男女の雇用格差、市民格差など、それもビジネスに入ってきてしまう。ビジネスと捉えると非常に広い範囲となります。例えばアートもその1つです。アイフォーンもアートであり、デザインの1つです。ビジネスはNDCでいうと5門となりますが、工業も</p>

	<p>入ります。どこまでをビジネスの範囲とするのか。</p> <p>そして育児も日本の社会構造から考えると、幅広く様々な資料を集めておかないと、今の育児について考える縁（よすが）とならないのです。</p> <p>前回の検討委員会でも議題に挙げた、「本の並べ方についてはNDC通りで良いのですか」という話がありましたが、札幌の場合は、NDCで並べてある箇所もありましたが、「新しい現代の問題」に関しては育児にしてもビジネスにしてもNDCを考えずに並べてありました。</p> <p>既存館からの移管は、古い本に関しては良くないと思います。「ビジネスの考え方」の本は移管でも良いですが、現代のテーマに関わることは法改正も次々と行われているので、レファレンスでも役に立たない情報となってしまいます。ビジネスにおいては法改正がされているので、資料もそれに沿って、とにかく新しい物を提供することを考えてください。既存館の移管は限定的にやらなければならないと思います。</p>
宇陀	<p>コーディネーターの相談カウンターがあるので、コーディネーターが相談された際に使用する本を優先定期に選ばなくてはならないと思います。区民の要望の中には「気軽に相談できるようにしてほしい」という意見が第1位にありましたので、相談員がすぐに相談にのれる資料があるかどうか重要です。</p>
大串	<p>経験的にいうと、よく使うハンドブックやすぐ紹介できる資料は手元に置いて、基本的には本棚に走って行くパターンが良いのでは。</p>
宇陀	<p>ビジネス支援といった際に、「本当に会社を興すためにはどうすれば良いのか。」といった手続き的な相談もありますし、「どういう商売をすれば良いでしょう。」といったようにアイデアベースの相談もあると思います。そういう所のバランスを考えて行かなくてははいけません。来ると想定しているのは、手続き的な相談なのかアイデアを求めた相談なのか、あるいはビジネスチャンス求めて人とのつながりを求めた相談なのか、そういう所と関係するのではないのでしょうか。</p>
大串	<p>その件についても今後考えていただきましょう。</p> <p>ネットでみると最近話題になっているのは藤枝晃の「エコノミックガーデニング事業」です。ビジネス支援のエフドアが話題になっています。経済産業省や地方経済分析システムのビッグデータを使って図書館が地域の課題を分析し、レポートをまとめて地域の人々に提案することもやっています。</p> <p>エコノミックガーデニング事業は中小企業を対象に支援を行っています。例えば酒屋さんの場合、海外の品評制度にターゲットを定めて、事業主を海外に連れて行っています。海外の品評制度で成果を上げたのは長野県のワインです。長野県がフランスのワインの品評制度に持っていき、山梨県との差を出しました。</p>

	<p>いずれにせよ、ビジネスには様々な観点があって、どのように地域との関係に上手く組み込んで書棚に並べるのか。すぐ手に取っていただけるような並べ方をしているのは、紀伊国屋さんが受託した熊本の駅前にある「熊本森都心プラザ図書館」です。館長が講座終了後、近くのホテルでお酒を飲みながら参加者と語り合い、地域の人々と交流を生み出して新しい企業や新製品を生み出しています。そういうのも参考にして考えた方が良いでしょう。</p> <p>それから、音環境、飲食についてはどうでしょうか。</p>
平久江	<p>まず、データをみると図書館を利用する目的で1番多いのは、「読みもの」ですが、今後期待するサービスとしては「図書館員に相談しやすくしてほしい」とのことでした。リクエストに準じて読みものを揃えて行くのが大事だと思います。</p> <p>次に、図書館にくる必要がない人のデータをみると、そもそも本を読まない人が多いです。そういう人に対して、電子書籍のようなモノを重点的に入れて携帯端末をきちんと整備することをやらなければならないと思います。</p> <p>あとはビジネス支援に力を入れるという箇所データをみると、意見を寄せてくれた人は小売業と自由業の方が殆どなので、そういった人たち向けのサービスを考えなければいけないと思います。</p> <p>疑問に思ったのは、回答には子育て支援を望んでいる人がとても少ないということです。さらに子どもがいる人のデータをみると、小さな子どもは半分であると半分は中学生以上なので、実際に小さな子供を育てて、図書館に連れて行きたいというのが少ない感じは分かります。したがって、子育て支援をやる意味として、回答データに出てこない人のニーズを掘り起こす形でのサービス展開をしようと考えているのか、お聞きしたいです。</p>
永田	<p>サーベイ調査というものは新しいサービスについては非常に弱いです。新しいサービスを開発するためには、このサーベイ調査では無理です。グループインタビューであるとか、フォーカスグループインタビューをやらないと見えてきません。図書館サービスで子育て支援サービスと名前が付いた所は殆どありません。児童サービス、子どもサービスという観点で行ってきたので、データの数字はあまりはっきりとは出ていないと考えた方が良いでしょう。</p>
平久江	<p>かなり積極的に働きかけるようなアプローチをしていかないと、希望者は増えないであろうとデータから分かります。</p>
永田	<p>新しいサービスの創造ですから、こちらからある程度プッシュしないとできないと思います。基本的に人々の認識の中に図書館と子育ては繋がらないのです。その認識がないとデータを読み間違えます。</p>
宇陀	<p>音というのは BGM のことを仰っているのか、それともキーボードをたたく音がうるさいと仰っているのか。</p>

<p>牧野</p>	<p>キーボードをたたく音がうるさい、といった意見もアンケートの中にはありました。今回のコンセプトとしては親子のフロアも賑やかにして、話をしながら作業や仕事もできる環境を考えていましたが、静かに過ごしたい方もいると思います。そこを解消する対策として例えば BGM を流している図書館もあると思いますが、その対策としてどのようなものが考えられるのか他にもご教示いただきたく思います。</p>
<p>大串</p>	<p>専門家の意見を聞いた方が良いのでは。音風景という学問があるのですが、青山学院大学の鳥越教授がカナダのトロントに学びに行き、日本に導入した学問です。鳥越教授と一緒に研究しているグループの中に図書館研究者では加藤修子先生（駿河台大学）がいて、都道府県立図書館や公共図書館の音環境の調査をされています。そういう方の意見を聞いた方が良いと思います。</p> <p>研究者の中には「図書館は静かにする場所であって、音環境なんてけしからん！」という人もいますが、そうではなくて音風景学という学問があり検討されてきていて、実際に公共図書館の音環境についても研究されています。そういうことを裏付けとして考えてみても良いのではないのでしょうか。</p> <p>要旨の4ページ下にある「9階フロアは入室時に受付での申請を想定している。フロアの受付制の利用はどうあるべきか、ご意見を伺いたい。」とありますが、先ほどの説明だと利用のデータを取りたいのですか。それは当然だと思います。入室の際に紙切れを渡して記載していただくとか、もしカウントをするのであれば入口に利用カードをかざしていただく等をして、できるだけ多くのデータを取るのはいかがでしょうか。ただ、強制はいけません。自由意思にはなりますが、「記載いただけましたら、お帰りの際にお渡しください。」と工夫してみるのはいかがでしょうか。</p>
<p>宇陀</p>	<p>入室時に申請させるのはハードルを設けるような感じがあるので、入る時には何もデータは取らないで、様々な相談をする中で記録を取って行くのが良いと思います。まずは、ふらりと入室し、どのようなものかとみる人もいますので、その中で「ここは使えるようだ。」と書いていただくと相談も増えてくると思います。</p>
<p>平久江</p>	<p>もしデータが欲しければ相談カウンターで同意を得た上で行なっていけばよろしいのではないのでしょうか。その位にしとかないと厳しいかもしれません。</p>
<p>大串</p>	<p>次は要旨の5ページにある「サインはどうあるべきか、ご意見をいただきたい。」に関してはいかがでしょう。</p>
<p>宇陀</p>	<p>定期的にサインの調査をしてことはないのですが、やはり様々な調査をする中で「サインは殆ど気にしない」、「サインが分からない」という利用者が非常に多いです。今の図書館のサインは図書館員が「こういうことを書きたい」といったサインであって、利用者目線ではないように、どの図書館でも私は思いま</p>

	<p>す。利用者からみて、相当大きさに大きく明るく表示しないとサインを認知しないと思います。図書館は、つい詳しく記載をしますが、図書館に慣れている人しかみない気がします。</p>
平久江	<p>文言としてはユニバーサルデザインに基づくことと計画段階に入れた方が良いのではないのでしょうか。</p>
宇陀	<p>インフォグラフィックも気を付けないと意味不明になることがあります。インフォグラフィックが流行りですが、全面的に良いというのには抵抗があります。</p>
大串	<p>要旨 14 ページにある、「図書館と SNS 等との関わり、例えば SNS リテラシーに関する取り組みのあり方について、ご意見を伺いたい。」について。</p>
宇陀	<p>今は様々な形で SNS をやっていますので力をいれるべきだと思っています。どのように力をいれるべきか難しいですが、push 型と pull 型があります。push 型をやりすぎると嫌がられますし、pull 型だと利用者がアクションを起こしてくれないとみないという欠点があり、そのバランスを考えないといけませんが、ある程度少し嫌がられても良いくらい図書館の存在感をみせるためには push 型の情報の出し方が良いと思います。他の企業に比べて図書館の SNS の利用は大人しく遠慮しているところがあるので、若干やりすぎでも図書館の意識としてはちょうど良いのではないのでしょうか。</p>
大串	<p>要旨 9 ページにイベントの例として情報リテラシー教育のことが載っています。</p>
宇陀	<p>中高生には教えなくても理解していることが多いですが、親子で受けることは良いと思います。</p>
大串	<p>学校教育の中でも 5 年生くらいで教わります。</p>
宇陀	<p>今 LINE とか Twitter とかそういった SNS に関してはジェネレーションギャップが非常に激しいと僕は思っています。LINE や Twitter をメインに使う世代とメールをメインに使う世代がある所からバツサリ分かれていて、大学生以下は LINE が普通なので声には出しませんが、「どうして先生は LINE 使えないの。」と思っていると思います。</p>
永田	<p>この調査でも出ていますが、情報リテラシーの要求は低いです。それは図書館がやっていないからです。図書館を使わない人の中に「スマホのアプリで済む」という意見がありました。スマホのアプリで殆どを済ませている世代がいる状況です。アメリカの公共図書館では、デジタルシティズンシップのように基本的にデータを安全に扱う教育をやっているのですが、日本の場合はその辺ははっきりしていません。けれども、益々この部分が必要となってきます。安全に使うような教育が必要なのですが、学校でもきちんとはできてはいないので、学校を卒業した一般の人が公共図書館を頼ってくださる形を作らないと、上手く社会的にコミュニケーションが展開できません。この部分はプッシュしてやっていかななくてはいけないと思います。ただ、良いやり方、どのようにやるの</p>

	かが今一つ分からないので教えていただきたいです。
宇陀	とにかく、まず SNS をやるのが大切だと思います。やらないと教えることもできないので。
大串	要旨 14 ページにある「目標値のあり方について、ご意見を伺いたい。」とありますが、要するにサービスの評価ということですか。こちらはどのようにでしょうか。
宇陀	単純にはインプット指標、アウトプット指標、アウトカム指標のことです。アウトカムをどう設定するのがポイントになるのではないのでしょうか。インプットとアウトプットは普通に取れば良いと思いますが、アウトカムというのは中野区の目標を達成しているかどうか、になるのですが、もう一度どう設定するか。コンセプトは「課題解決型図書館」、「継続的な学び」となっていますので、中野区の図書館がこの 2 点をしっかりと達成できているかどうか。何で一体「課題解決型」、「継続的な学び」を出来ているかの指標を設定できるのか、といったところです。 想定している設定が提案側にあるのではないですか。
大串	最近では、従来の貸出冊数を指標とするのを止めて、レファレンスサービスの件数等を指標に取る図書館も出てきました。
宇陀	「課題解決型」という意味ではビジネス支援で割とみやすい気がします。相談しに行った際に、企業に関して、ビジネスの展開に関して、手続きに関しての相談が図書館のサービスにおいて達成されましたか、と評価していくのは設定できると思うのですが、「継続的な学び」の評価をどうやって取るか。
平久江	この問いかけは、何を聞きたいのかがよく分からないのが正直なところです。
永田	一般的にはこのような図書館を新設したときに、その新設によってどのような行政効果があったのかと問われます。ですから単純な話しだと、入館者数の目標値はどの位か、と問われます。ただ、その数値はある程度インプットと一定のプロセスで決まってしまう。インプットが下がればアウトプットも下がります。そういうことではなく、今、アウトカムの指標を考えてみたらどうかと宇陀先生が仰っていたのですが、そういう形で良いのかどうかお聞きしたいです。 いずれにしても一定の予算を支出して行うのですが、それなりの目標値設定は必要かと思います。
平久江	むしろ私は目標値よりも目標自体が気になっています。児童サービスに関していうならば、教員サービスをターゲットに入れて行くのはどうでしょうか。全体を通して様々な機能を充たそうとしているのは理解できますが、詰めこみすぎているような感じがしています。図書館はゆとりと柔軟性が大切であります。そう考えるとティーンズルームは目玉なのかもしれませんが、むしろ学習室のような部屋があって、子どもたちが自由に学習し、好きな本を読むスペー

	スがあっても良いのではないのでしょうか。こういった部屋が特にないので大丈夫なのかと思いました。
大串	それでは、次の地域開放型学校図書館及び学校図書館の運営計画に進みましょう。
平久江	学校図書館コーディネーターは複数配置というイメージで前回発言していたのですが、人数に関してはまだ決まっていないという認識でよろしいのでしょうか。
梶川	はい、まだ決定はしていません。
平久江	大きな点では、学校図書館コーディネーターの人数の問題があります。図書館と学校が win-win の関係を保つためには人材がとても重要です。もし配置するのであるならば、少なくとも6校前後に1人くらいで配置して行かないと厳しいと考えています。 それから、施設の設備についてお聞きしたいのですが、中野区の小学校、中学校の平均クラス数はどれ位なのですか。
宮崎	統合しているところは多くて1学年5クラス、大体1学年3クラスです。
平久江	地方に比べると1つの学校の単位として大きいです。そう考えたら、施設の設定想定基準が低いかと思います。5,000冊、広さが30平米だと標準で公表している数字からみても低いです。
高橋	学校図書館自体にはそれぞれ10,000冊はあります。プラス開放型学校図書館の方に5,000冊となります。
平久江	学校図書館を残しつつ造る、それを併設と呼んでいるのですか。
高橋	そうです。学校図書館は標準の算出程度の冊数は確保されているので、下地としてある中で開放型の部分がプラスになります。
宮崎	先ほどのお話でありましたが、小学校が統合前の所が多く、1学年2クラスの所が多いです。多い学校だと全校で20学級くらいあります。中学校は大体1学年で3クラスくらいです。
平久江	基準設定については+αで5,000冊が配置されることであれば大丈夫かと思えます。 区切りの問題に関しては、完全にセパレートするのかどうか。前はセキュリティの問題を考えて行かないといけないと話をしたのですが、併設型でも区切りのない形で運営されている学校図書館もあります。その辺の運営のノウハウを調べた方が良いと思います。例えば志木市の学校図書館は区切りがなく完全に仕切りのない併設型で運営をしているので、調べてみると良いと思います。利用規程で細かい対応をしていると思われそうです。
宮崎	学校長はとてもその問題を危惧しています。
平久江	区切る形が望ましいかもしれませんが、そうすると完全に分かれてしまうので。
宮崎	それを安心させるような材料を与えないと、小学校長は嫌だというと思います。

平久江	<p>区切りがなくて通過できるような所も実際あるので、その辺を調べて、どのような問題があるかも確認してみてください。第一に優先されるのは安全性となります。</p> <p>それから、人材に求められる要件について記述が曖昧であると思います。公共図書館も同様なのですが、書き方がバラバラな感じがしています。ここで求められる要件としては、資格と資質、求められる役割です。この計画で1番大事なものは人を手厚く配備していくことです。公共図書館も含めて今回の計画で、特徴がある箇所だと思います。どのような人材を雇うかについて、とても重要になってきます。例えば公共図書館であると、求められる要件に「コミュニケーション能力」と書いてあることが多くて、それで良いのかと思います。資格、資質、人材に求められる役割をきちんと記述された方が良いと思います。その点では、学校図書館の部分ではかなりアバウトになっています。学校図書館コーディネーターをみると、「公共図書館と学校図書館の両方の勤務経験があること」と記載されています。学校図書館指導員になると「図書館勤務経験があること」と書かれています。どういう人物を想定しているのか、よく分からないので、そこを改善された方が良い気がします。</p> <p>資格のこともきちんと書いた方が良いでしょうし、「学校図書館ガイドラインを踏まえながら行っていく。」とマニュアルには書いてありました。そう考えると学校図書館ガイドラインでは、例えば「学校司書であればモデルカリキュラムをしっかり履修している。」ということも書いてあります。そういう所も明確にして欲しいと思います。</p>
宇陀	<p>システム導入の主眼点について。</p> <p>まず、インターフェースは複数作るつもりでいた方が良いです。公共図書館と学校図書館の一体型の運用ということになっていますが、公共図書館のインターフェースと学校図書館のインターフェースは異なること、利用者がみたいインターフェースと職員が使うインターフェースもまた異なるので、システム設計は多面的に作る事が重要であると思います。</p> <p>次に、最初に作ってOKということはまずありません。基本的には改修をすぐにする事です。図書館員は利用者から「ここが使いづらい」といわれてもすぐに直さないのですが、とにかくすぐ直すことが非常に重要です。システム的には重要ではないことが利用者的には非常に重要なことがあるので、すぐに直さないといけません。利用者はすぐに直っていないとシステムをすぐに見捨てます。そして「この図書館はダメだ。」といわれてしまうので、とにかくすぐ直すことです。</p> <p>今はデータベースもあり、電子書籍もあり、紙の本もあるので、資料への距離感を最短にすることを考えなくてはなりません。</p>

	<p>それから、OPAC（検索機能）が付いていれば良いというイメージもありますが、今時検索機能があるだけではダメです。図書館に来ると沢山資料があると分かりますが、システム上だと画面では資料のボリューム感はみえません。そこは図書館システムの1つの欠点だと私は思います。豊富な資料があることをみせるようなシステムを考えなくてははいけません。ただ、何でもかんでもシステムに入れ込んでしまうと資料への距離感が遠くなるので、一筋縄ではいかないのですが、今までの図書館システム導入の経験から分かることもあるので、そこを先回りしていくことが重要だと思います。</p>
平久江	<p>システムに関しては、改善されて新しい取り組みをされていると思いました。</p>
宇陀	<p>リポジトリに関してはよく分からないのですが、教育活動の成果をリポジトリに取り組むということですか。</p>
梶川	<p>1つ想定しているのは、生徒の成果物（卒業作品、卒業レポート、修学旅行のパンフレット等）を今は現物で保存しています。それをデジタル化しリポジトリという形で登録しておけば、学校側として量的質的な成果を把握する時に便利であり、生徒自身も先輩方の作品をみることができます。</p> <p>もう1つ考えていることは、可能かどうか分かりませんが、先生方が授業の発表で研究した資料や成果物を保存し、校内だけ閲覧可能にするのか、または、必要な情報はインターネット上で公開して世の中に共有できれば良いと思っています。総合教育センターが新図書館に併設されますので、そちらと共同して行えば中野区の教育活動がみえる化になり、よろしいのではないかと思い提案しました。</p>
平久江	<p>校内でしたらそんなに問題はないのですが、校外からアクセスできるとなると個人情報があるので成果物は難しいです。まずは、学内公開をしてから校外へ開放できるようにした方が良いでしょう。さらには、個人情報について認識のある方が学校図書館の担当になっていないと、危惧されると思います。</p>
梶川	<p>その件については十分にそう思います。しかし今は全世界的に海外の学校活動もインターネット上でみることができ、中野区の成果物も同じように発信できると中野区の教育活動の中ではとても良いことだと思います。そこに行くまでは様々なハードルがあると思うので、何年か計画で行なっていくと良いと思います。</p>
平久江	<p>この部分は公開できる、この部分は公開できないと選別できる人がいないといけません。学校図書館の価値も上がることになるので、積極的にやっていただければ良いと思います。</p>
宮崎	<p>どこの自治体でも教員はそういったものを欲しがって実行しようとするのですが、個人情報も然り著作権も引っかかってしまいます。</p>
梶川	<p>生徒の調べ学習についてはデータではなくモノですけれども、調べ学習コンク</p>

	ールのモノは出てきています。
宮崎	どちらかというと、教員が作った教材や指導案で具体的に著作権が発生するようなものがどうしてもあるので、それをイントラでやっているものは良いかもしれませんが、インターネットで公開してしまうと訴えられた時にダメなのではないかと思います。
梶川	制作物についてのデータの典拠等をしっかりしておかないと剽窃となってしまうので、中野区内で先生方が成果物を見るのはどうでしょうか。
宮崎	そこも危ないです。
梶川	教育センターさんはどうお考えでしょうか。
宮崎	中野区もそういった取組みを実行したいとは思っていますが、やはり個人情報や著作権の問題で引っかかってしまうのです。個人の指導案で引っかからない物を載せることは良いのですが、大体様々な作品に関わってたりします。例えば、道徳でもどこかの本が関わってきます。作成した先生の著作物という考えもありますから、そこも承諾を取らないといけません。
梶川	まず発想の時点では、学校図書館にそういった成果物が集まるので、それらをデータ化して次の生徒達が参照できるシステムができたら良いと思いました。
宮崎	それは同感です。
平久江	学芸大はそういったことを実行しているので参考にしてみてもどうでしょうか。
大串	今までのところで行政の方から聞きたいことはありますか。
高橋	せつかくの時間なので、先生方の意見をなるべく頂いて、我々が咀嚼して発想できたらと思っています。
大串	学校図書館にそれぞれ人が配置されていくと思いますが、どのように人を配置したら良いのでしょうか。
平久江	書いてあることをみると学校図書館指導員を置いて学校図書館コーディネーターを置くとあり、さらにそこにもう1つ学校図書館があるということが計画段階ではあまりイメージができませんでした。併置という話しで両方に人の配属があつてなおかつ学校に図書館員が勤務されていると学校司書が2人いて、学校図書館コーディネーターが配置されるということによろしいのでしょうか。
高橋	平日で学校がある時には、学校図書館に指導員が1人プラス開放型に1人。先ほど複数館に1人なのかとお話がありましたが、そのスペース全体を考えれば、そういう時間帯は常に複数いるという考えです。今のところセキュリティの関係もあつて閉ざされていますので、それぞれで基本的には仕事をするようになります。可能であれば協働することもあると思いますが、そのような配置の仕方です。
平久江	なかなかそれだけ手厚い学校図書館もないので、全国で注目されるかもしれま

	せん。
高橋	中野の場合は学校図書館に指導員を全校に配置して、1日4時間、16日と既に行っていますし、そこは充実しています。さらに子ども達に働きかけ、あるいは相談に乗りながら本を紹介することは充実させていきたいと考えています。さらに開放型にも人を配置するので、地域との繋がりということで、配置している職員の活用をしたいと思っております。
平久江	場合によっては両方みるということでしょうか。開放型学校図書室の対応部分と既存の図書館の両方に行くイメージでしょうか。
高橋	学校図書館部分については人を配置します。開放型はハード的な整備が必要なので、一遍に開設はできないと思います。 まず、指導員の充実に関しては全校小中やっていきたいと思っています。先ほどの中野がやっていた指導員の配置時間を増やします。それは平成32年度から入れ替えていきたいと思っています。加えて整備が進む開放型については別の職員を入れて、地域との連携ということを進めていきたいと思っています。 小さい時から図書、読書に親しむ環境というところで、小さい子どもと保護者をメインターゲットに据えた見解で整備をしていきたいと考えています。
大串	開放型に配置する人は公共図書館から来るのでしょうか。
高橋	考え方としては、そうです。先生が仰っているようにそこが上手く融合できれば、さらに発展または面白い組み合わせができると思うのですが、やはり過去の事件があったので、セキュリティの壁というのはしっかり造っていかないとはいけません。そこは時代が変わって行けば変化させていきたいと思いますが、現状では難しいと思っております。同一敷地内ですが、少し距離のある形で運営をせざるを得ないと思っております。 土日や夜間は上手く繋げて活用を図っていきたいと考えていますが、開放型は子どもをターゲットにすると、どうしても日中がメインとなります。その時間帯については残念ながら融合型の運営は難しいと限界を感じております。
平久江	開放型学校図書館の開館時間が16時45分までと記載がありますが、もう1時間くらい延びないのかな、と思います。17時前に終わってしまうのは早いと思います。
佐伯	開放部分の開館時間については要旨の16ページに表で記載してあります。
平久江	新図書館の児童サービスフロアを9階に設置するのは可能ですか。ビジネスがどうして9階になっているのですか。
高橋	実際には設計がもう進んでいるので今から変更は難しいです。逆に何故そのご指摘をいただいたのか参考にお聞かせください。
平久江	10階の研修室との繋がりを考えたらビジネスよりも子育て支援をしている人達の方が頻繁に使うので、近い方が良いかと思いました。

高橋	<p>逆にビジネスの方がセミナー等をやる時に10階のセミナー室が使い易いかと思います。また、朝大学のような早朝の教養講座ができるのではないかという発想もあり、ビジネス的な部屋を上を持っていきました。その時には児童が10階を使う発想はできていなかったの、結果として今のフロア構成を考えました。</p>
大串	<p>私も最後に3つ申し上げたいことがあります。</p> <p>1つはハーバード大学では、最新版の雑誌をデータでみせてくれます。ただ、芸術関係の雑誌は著作権の兼ね合いがあって載せられないそうです。日本の場合は国会図書館が相当一生懸命集められて、検索が上手く行けば様々な資料が読むことができます。いずれにしろ、紙ではなくネット上で読めるものが広がってきています。新図書館のイベントや講座でも「検索して読む」ということを進めていく必要があると思います。</p> <p>次に、創造的な領域に足を踏み入れてはどうでしょうか。アメリカの大学だと、電子書籍を作ることや3Dプリンタで様々な物を作るといった創造的な活動に対して前向きに取り組んでいらっしゃいます。日本でも違和感なく取り込めると僕は思います。例えば絵本を描いてデジタル化してネットで閲覧できるようにするとか。これは高校の情報科の課題でもあります。それと、高校の理科の課題で地域の防災計画（ハザードマップ）を見直して作ることをやっています。それから地球環境をシュミレーションする等、高校でもそういったことを実施しているので、むしろ図書館としては、地域の人を巻き込んで、地域の提案型の活動をやっていくのはどうでしょうか。図書館には様々な資料がありますし、ネット上の情報も探しやすく手に入りやすいので。アメリカだと図書館員が地域の協議会に出て、事務局を担当して情報を集め、レポートにまとめて中心になって行っています。そこまでは無理かもしれませんが、そういった地域の様々なことに参加して図書館員が中心となって住民の方と何かを創っていく活動もすぐには無理かもしれませんが、そういった方向も考えていただいても良いと思います。</p> <p>地域の方に積極的に図書館の活動に関わっていただく。そのためには、地域の図書館に愛着をもっていただかないと難しいです。そのためには小さい頃から講座に参加して社会人になってからも利用できるように、継続した学びを提供していく必要があります。例えば、荒川区立中央図書館では小学校高学年向けに教育機器を使った学びができる環境を作っています。生涯にわたる学習意欲を作る4歳児、5歳児に教育機器を使用して調べたり作ったり、読んでみたり、本に関わる活動で喜びを見出して、それをベースにして成長していけることがあります。そういったことも考えていただくとよろしいのではないのでしょうか。</p>
平久江	<p>既存の学校図書館は生徒向けのサービスが中心となっています。学校図書館法では、学校図書館の利用対象者が児童、生徒、教員と明記されています。従来</p>

	<p>の学校図書館は教員へのサービスがとても弱かったのです。それは何故かという と、専門的な人がいなかったからです。それで学校図書館は子どもの図書館 というイメージが強くなってしまいました。これからアクティブラーニングと いうのが出てきますと、教員への指導というのがとても大事になってきます。 地域開放型学校図書館の性格上、教員向けのサービスに力を入れてみてはどう でしょうか。そうすると既存の図書館と差別化ができますので、そこを書き込 んでいってみたいかがでしょうか。</p>
大串	<p>早稲田大学は教員向けの図書館活用マニュアルという物も作っています。千葉 大学は先生方が使う教材等も所蔵しています。それは大学内であるからできる ことです。</p>
永田	<p>直接的ではないのですが、図書館システムを導入する 1 つのメリットは相互利 用とありますが、その中に膨大な資料を入れるのがシステム側のメリットと なります。学校図書館の場合は資料がないので、教員は調べものをするのに苦 労する。そうした状況バックアップするのはこのシステムだと思います。</p>
平久江	<p>平成 32 年度にはそういったシステムが立ち上がるということで、素晴らしいと 思います。</p>
大串	<p>特にお話しになりたいことはございますか。他にお伝えしたいことがあれば、 お願いします。</p>
2. 次回の検討委員会について	
佐伯	<p>次回の検討委員会は 9 月 11 日（火）、お時間帯は 15 時から開催をさせていただ ければと思います。会場に関しましては、中央図書館セミナールームを使用す る予定となっております。</p>
大串	<p>では、終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p>